

# 大東文化歴史資料館だより

第23号 2017.11.30

## 企画展「大東文化学院・三部制の導入」に伴う、 学院史解説会の実施

大東文化歴史資料館運営委員・大東文化大学東洋研究所特任准教授 谷本 宗生

大東アーカイブス第22回企画展「大東文化学院・三部制の導入～『漢学』の学校から文科系総合大学への胎動～」が本年5月より、資料館展示室（板橋校舎2号館1階）で開催されています。企画展の展示趣旨などについては、『大東文化歴史資料館だより』第22号（2017年5月）などでも、浅沼薫奈運営委員が分かりやすく説明されています。展示会場では、三部制一期生の卒業アルバムや当時の受講ノートなどが展示され、初代学長を務めた土屋久泰（竹雨）のパネルコーナーも設けられています。来るべき本学百周年へ向けての大東文化大学史を振り返ってみても、大東文化学院・三部制の導入はまさに「『漢学』の学校から文科系総合大学への胎動」であったといえるでしょう。

今回、第22回企画展の開催に伴うかたちで、できるだけ多くのかたがたに本学の歴史をこの機会にぜひ知っていただく！ということで、学院史解説会を実施いたしました。まず10月16日（月）、お父様が東亜政経科の一期生でもあった中国文学科准教授の吉田篤志運営委員と一緒に、吉田ゼミ学生（月曜2時限）十数名を対象として、大東文化学院から東京文政大学までの歴史解説を谷本委員が主として行い、土屋竹雨の業績や東亜政経科の設置事情などの説明を吉田委員が行いました。

谷本・吉田委員の学院史解説を聞いて、展示見学をしてもらったゼミ学生らの声は、以下のようなものでした。そのうちの幾つかをご紹介します。

「大東文化歴史資料館の存在は知っていましたが、今日初めて入館しました。この中国文学科が大学の始まりだったことを学びました。」「今までは何気なくす通りしていたところだったんですが、中の展示を見ると興味がわくものも多く楽しめました。今回は土屋竹雨さんの書があったが、他の人の書も見たいなと思いました。」「漢文の専門教育機関として創設されたという自身の大学について学ぶ、良い機会となりました。戦前の貴重な資料の展示がなされていることを知らなかったもので、機会があればもう少し見て回りたいと思いました。」「大東文化大学が古くから存在していたことは知っていましたが、具体的な歴史を知り、驚きました。これからは本校の歴史を意識して学生生活を送りたいと思います。」「当時の歴史、写真やノートを実際に見ることが出来てとても良い経験になりました。大東の歴史をもっと多くの学生の方に知ってもらいたいと思いました。当時の映像など探すのは大変だと思いますが、そういうのがあったらもっと多くの人に興味関心を持ってもらえるのではと思いました。」「当時の写真や学生がとっていたノートを実際に見ることができてよかったです。すごくきれいな状態で残っていてすごいと思いました。私が思っていた以上に大東の歴史は深く、中文が第一部だったこともびっくりしたし、すごいと思いました。」「大東文化大学の歴史について詳しく解説してもらい、より一層勉学に励んでいきたいと思いました。特に、当

時の学生のノートは、現代の学生よりもしっかりとまとめてあり見てとても素晴らしいと感じました。一度は戦争で焼けてしまった校舎が池袋で、そしてこの板橋で復興することができているからこそ、私達は充実した毎日を送れているのだと感じさせられました。また、大東文化大学はもともと名前を東京文政大学などと名乗っていたのには、歴史的背景が大きく関係していることを初めて知りました。」

また11月4日（土）の第95回大東祭開催期間中、特別企画として展示室を開室したうえで、大東文化学院史の解説会を総務課の尽力のもと中村宗悦大東文化歴史資料館長と谷本委員で、一般訪問者ら数十名に対して行いました。ご子息やお孫

さんが本学で学んでいるというご父母や数十年ぶりに学祭で母校を訪問したという同窓生ら、多くの方々が展示室を見学されました。見学者の皆さんからは、「九段校舎が、大正12年の関東大震災発生を受けて急きよ変更された校舎の場所であったことには驚きました。」「戦後新制大学の始まりが、校名が現在の大東文化大学ではなかったというのは意外でした。」などの声もありました。

今回のように、本学ゼミ学生らやご父母・同窓生らに向けて、企画展に伴うかたちで本学の歴史解説会を実施することができ、相応の反響や手応えもあって有意義な試みであったと評価できるものと考えています。

○谷本・吉田両委員による趣旨説明（10月16日）



○10月16日の模様（1）



○10月16日の模様（2）



○11月4日の模様



撮影：総務課

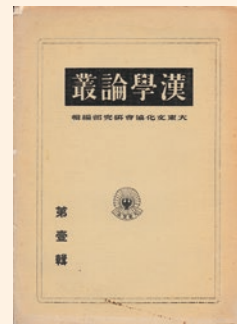


## \* 資料紹介 \*

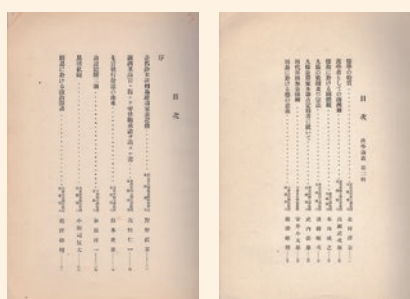
1936（昭和11）年4月に創刊された『漢学論叢』は、「大東文化協会研究部」によって編まれたものである。翌年7月に第貳輯が刊行されたが、以降の発行は確認できない。

「大東文化協会研究部」は、1923（大正12）年2月の協会発足と同時に組織され、以降、大東文化協会における研究活動の中心を成した。当初は「東洋研究部」「比較研究部」と分かれ、その研究成果は主に機関誌『大東文化』に発表されていた。そこでは東洋思想や国内外の政治経済に関する研究のほか教育制度や教授法、思想運動調査等も含まれていたが、次第にその活動は漢学研究へと特化していき、『漢学論叢』刊行が実現されることとなった。大東文化協会研究活動の真骨頂の一つであったと言ってよいだろう。

第壹輯「序」には、「本協会は茲に碩学の心血を濺がれたる文章論説等数編を得たれば、幸に之を第一輯として公刊し、以て碩学研究者に貴重なる文献を頒たんとす」「本協会は先進碩学の後援を冀ひ、以て第二輯第三輯を続刊することに務め、斯学の指導研究に新生面を開拓する光榮を担はんと欲す」と記されている。執筆者には、大東文化学院教授であった小柳司氣太、鶴澤總明のほか、狩野直喜（東方文化学院京都研究所所長）、矢野仁一（京都帝国大学名誉教授）、鈴木虎雄（京都帝国大学教授）、加藤盛一（立命館大学教授）の名が連ねられた。



漢学論叢第壹輯表紙



漢学論叢第壹輯目次 漢学論叢第貳輯目次

1937（昭和12）年7月に発行された第貳輯の執筆者は、大東文化学院教授であった安井小太郎、鶴澤總明のほか、北村澤吉（広島文理科大学教授）、高瀬武次郎（京都帝国大学教授）、本田成之（龍谷大学教授）、諸橋轍次（東京文理科大学教授）、武内義雄（東北帝国大学教授）となっており、計7本の論稿が掲載された。第貳輯「序」には、「今復更らに第二輯を上梓し、以て斯学研究者に貴重なる文献を頒たんとす。是れ実に東洋文化の発揚に、日本精神の培養に重要なる資料たるべく、殊に現代に於ける精神文化研究の指針として最も安全なるを信ずればなり」と刊行の趣旨が述べられている。

（大東文化歴史資料館運営委員 浅沼薫奈）

## \* 大東アーカイブスの動き \*

今年5月、東松山図書館より大東アーカイブスへ、体育会関連の16mmカラーフィルムの移管依頼がありました。利用されることなく長く図書館内に保管されていたもので、酢酸臭はひどかったものの、フィルム自体は比較的保存状態が良い状態で見つかりました。

今回確認されたフィルムは3本で、1973（昭和48）年、1976（昭和51）年、1977（昭和52）年に制作されたものでした。およそ15～35分から構成されるフィルムで、それぞれタイトルが付されており、「挑戦」「青春の架け橋」「若い力」と記されています。

「挑戦」は、「創立50周年箱根駅伝記録映画」として制作されたもので、1966（昭和41）年に同好会として結成された陸上競技部が、青葉監督を1968（昭和43）年に迎え、箱根駅伝を制する直前の時期を記録したものでした。「青春の架け橋」は、レスリング部のカルフォルニア州立大学との遠征試合を記録したものです。

「若い力」は、体育会10周年記念フィルムとして制作されたもので、当時の金子昇理事長の挨拶から始まり、体育会に所属するスポーツ全体を記録して収めています。箱根駅伝2連覇を達成した翌年ということもあり、箱根駅伝での活躍が見どころとなっています。

大東文化大学百年史編纂ホームページ「継往開来」では、上記のうちすでに「挑戦」を公開しており、引き続き、「若い力」「青春の架け橋」を公開していく予定です。ぜひご覧ください。



（大東文化歴史資料館運営委員 浅沼薫奈）

## &lt; 資料寄贈ご協力のお願ひ &gt;

大東アーカイブスでは、引き続き本学関係資料のご寄贈をお願いしています。学園史に関わる資料がございましたら大東文化大学総務課（大東文化歴史資料館担当）までご連絡いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 百年史編纂事業の進捗状況について

大東文化歴史資料館館長・百年史編纂委員会委員長 中村宗悦  
経済学部現代経済学科教授

2015年6月に、「百年史編纂委員会」が設置されて以来、2年半が経過しました。現在、2023年までに百年史資料編を刊行すべく資料収集に取り組んでいるところです。これまでに学園や大学教務関係の会議資料や入試関連資料などを中心に収集と整理を進め、そのデジタル化などもおこなっています。

こうした資料収集の過程で思いもかけなかった資料に出会うことも何度かありました。とくに今年に入ってから、東松山図書館の書庫の片隅から陸上競技部がはじめて箱根駅伝で優勝した当時の貴重なフィルムや当時の運動部の活動を収めたフィルムなどの映像資料が発見されました（詳細は「大東アーカイブスの動き」をご覧ください）。そのまま映写機にかけることは資料を破損する恐れがあることから業者に依頼してデジタル化し、当時の雰囲気そのまま伝える画像データとして取り出すことになりました。現在、大学のウェブサイト中に公開されている百年史特設ページ（「継往開来」<http://www.daito.ac.jp/100th/>）中にその復元した画像が一部公開されていますが、お陰様で多くの人にご覧いただいています。これらの映像は本当に偶然見つかったものでしたが、同様な資料がまだまだ眠っている可能性があります。実際、つい最近も板橋校舎のメンテナンス作業の最中に、普段は人があまり出入りしない場所から予想もしていなかった資料が大量に出て来ました。なぜその資料がその場所に保管されていたのかは不明ですが、それらの資料も劣化が激しかったため、燻蒸などを経て整理すべく作業を進めています。百年史資料編に収集できるものかどうかはまだわかりませんが、できるだけ早いうちに整理し、内容の精査をおこなっていきたく考えています。

またこれまで大学が刊行してきた年史関連の刊行物（「継往開来」刊行物コーナーに紹介し、目次・内容を公開予定）に収集されている資料群の元になる一次資料の収集と再検討も重要な課題となっています。とくに最初の本格的な自校史となった『大東文化大学五十年史』からすでに半世紀が経とうとしており、その間の研究によって批判されるべき点は批判し、新たに位置付け直していく必要があります。百年史編纂には単に新しい資料発掘だけではなく、このような古い資料の再検討が欠かせない作業となってくるのです。

### 【大東アーカイブス活動記録】（2017年4月～2017年9月）

- |   |  |
|---|--|
| 4.12 全国大学史資料協議会東日本部会計帳簿監査業務                   | 5.18 第22回企画展「大東文化学院・三部制の導入 『漢学』の学校から文科系総合大学への胎動」公開       |
| 4.17 仲谷正樹氏（元職員）より資料受贈<br>石川和夫氏（同窓生）より資料受贈     | 5.23 WG会議  |
| 4.21 岡田脩氏（名誉教授）より資料受贈                         | 5.29 百年史編纂委員会会議<br>歴史資料館運営委員会会議                          |
| 4.24 東洋研究所所蔵資料移管（受入）                          | 6.8 全国大学史資料協議会東日本部幹事会・総会（於：淑徳大学）                         |
| 4.27 全国大学史資料協議会東日本部幹事会会議（於：明治大学）              | 6.23 WG会議  |
| 5.10 企画展入れ替え準備<br>総務課より資料移管<br>高橋守氏（職員）より資料受贈 | 7.6 デジタルデータ納品（堀内カラー）<br>写真ネガのデジタル化打ち合わせ                  |
| 5.11 展示室展示品撤去作業<br>（ピアトリクス・ポター™資料館へ返却）        | 7.20 全国大学史資料協議会東日本部幹事会・研究会<br>（於：東京大学史料編纂所）<br>学務課より資料移管 |
| 5.16 展示室入れ替え作業<br>田尻洋介氏（同窓生）より資料受贈            | 9.20 ウェブサイト（「継往開来」）に「挑戦」を公開                              |

大東文化歴史資料館だより

第23号

DAITO ARCHIVES NEWSLETTER Vol.23

発行：2017年11月30日

編集発行：大東文化歴史資料館

〒175-0083 東京都板橋区徳丸 2-19-10

大東文化大学徳丸研究棟

TEL 03 (5399) 7646 / FAX 03 (5399) 7647

URL : <http://www.daito.ac.jp/information/about/archives/index.html>